93　幕末の佐賀藩が所有していたオランダ語の医学書

小澤　健志
NAA リテイリング

幕末雄藩の一つであった九州の佐賀藩は，日本医学史上で特筆すべき業績として嘉永二年（1848 年）のモーニッケ苗の植え付け，及び医師のレベル向上を目的とした医師免許制度の実施を全国的に先駆けて行なったことが挙げられ，幕末の日本における西洋医学の受容と啓蒙の黎明期に大きな役割を果たした．このような活動を行なった佐賀藩は，当時の全藩の中でも積極的に西洋医学を取り入れるために，多数の西洋医学書（蘭医学書）を所有していた．佐賀藩が幕末に所有していた蘭書のリストは，『洋学目録』というタイトルで佐賀県立図書館に保管されており，この目録によると佐賀藩は医学書も所有していたことがわかっていた．しかし，この目録は書籍の著者名，タイトルなどの書籍情報がカタカナで記述されており，欧米の図書館に実在する書籍とのマッチングが行なわれていなかった．私は目録でカタカナに書かれた書籍情報をオランダ語に書き起こし，欧米の図書館に現存する書籍とのマッチングを行なった．その結果，目録に記述されていたすべての蘭医学書，68 種類の書籍 104 冊を特定することができた．

全書籍を特定できたことによって，明らかになったことは次の 3 点である．まず 1 点目は佐賀藩が所有していた全蘭医学書の中で，一番古い本は 1763 年から 1777 年に出版された獣医学書で，一番新しいものは 1861 年に出版された整形外科書であったことである．出版年を年代別に精査したところ，1840 年代に出版された書籍の蔵書数が急激に増加していた．佐賀藩が嘉永二年（1848 年）のモーニッケ苗の植え付けを実施した頃から蘭学を本格的に取り入れたことが明らかになっていたが，この蔵書数増加の事実は，この時期から佐賀藩が積極的に蘭医学を取り入れることに努めたという事実を裏付けるものである．2 点目は外科，内科，眼科などの専門分野別の蔵書数を調べたところ，全 104 冊のうち外科書を 17 冊所有し，次に解剖学書を 10 冊，内科書を 9 冊という順であった．3 点目は，佐賀の西洋医学教育機関（医学校）で使用していたと思われるテキスト，もしくは，その使用目的で輸入されたテキストを特定できたことである．医学書全 68 種類のうち，1 冊しか所有していない書籍は 52 部あり全体の約 75% を占め，2 冊しか所有していない書籍は 11 部で，約 16% を占める．これらの合計は，全 69 種類のうち 63 部（91%）を占める．残り 6 種類の書籍を所有冊数の多い順に挙げると，8 冊を所有していた 1844 年に出版された『オランダの医学雑誌』，6 冊を所有していた 1825 年に出版された『医学寄稿論文集』，4 冊を所有していた 1831 年から 1837 年にかけて出版された『外科学書』，3 冊を所有していた 1838 年に出版された『眼科学の歴史』，1817 年に出版された『外科包帯学のためのテキスト』及び 1840 年 –1841 年に出版された『人体解剖学のためのハンドブック』である．上述の 6 種類の書籍は佐賀藩医学校好生館でテキストとして使用されていた可能性があり，佐賀藩の西洋医学受容の黎明期に大きな役割を果たしたと思われる．

本講演では全書籍を紹介するとともに，佐賀藩の医学教育及び政策との関連について考察を行なう．